

「バンクオブアメリカ・メリルリンチ ジャパンコンファレンス 2018」(2018年9月6日開催)

主な質問と回答

Q. 海外の環境エネルギー事業は、非常に大きなマーケットである一方で競争も厳しいですが、海外に進出するうえでオリックスの強みは何でしょうか。

A. 国内で実績を積み上げており、海外においても知名度が上がってきています。国内の再生可能エネルギー事業で1GWという規模は、インパクトのある数字のようです。実際のオペレーションに必要な能力をもつ技術者も、社内に相当数在籍しており、国内での太陽光や地熱のノウハウを武器に、海外での環境エネルギー事業を進めていきたいと考えています。

Q. オリックスではROA3%、ROE11%が1つの判断基準になっているかと思いますが、環境エネルギー事業はオリックスの収益性にどの程度貢献していくのでしょうか。

A. 1からものをつくるグリーンフィールドのプロジェクトでは、資金の支払いが先行し、あとから収益が出てくるため、投資当初からROA3%を達成するのは難しい可能性があります。中長期的な収益性で判断しております。

Q. 海外においては、既に米国やインドで環境エネルギー事業を手がけていますが、欧州で事業を拡大する上で、既存のグローバルなプラットフォームはプラスに働きますか。

A. 国によって制度やプレイヤー、競争環境が異なるため、必ずしもある国での経験が他の国でそのまま活用できるとは限りませんが、アセットを動かす技術的知見、パフォーマンスの上げ方やリスクの見極め方は、プラスに働くと考えています。

Q. 資料24ページに、2026年3月期を目途にセグメント利益とセグメント資産を倍増させるという目標を掲げておりますが、確度はどの程度でしょうか。

A. 単にアセットを積み上げるだけなら可能ですが、利益の伴うアセットの積み上げはグローバルマーケット次第になると思います。よって、倍増という目標は簡単ではありませんが、適切な価格で取得できる環境エネルギー案件を見つけていけば、利益の下振れのリスクは限定的だと考えています。

Q. オリックス全体の新規投資1兆円のパイプラインのなかで、環境エネルギーが占める割合はどの程度でしょうか。

A. 2019年3月期は既に航空機やアセットマネジメントの分野での新規投資を公表しています。コンセッション等他部門での状況も加味しながら新規投資を進めていますので、環境エネルギーだけが突出するということはありません。現在、欧州では何十億ユーロというクラスの環境エネルギー関連の投資案件が多くありますが、できればもっとコンパクトなところから着手したいと考えています。

Q. 資料24ページで、2026年3月期の環境エネルギー事業のセグメント資産1兆円を目標に掲げていますが、そのときの海外構成比はどれくらいを見込んでいるのでしょうか。

A. 概ね3割程度を見込んでいます。

Q. 資料 24 ページに記載している ROA4%の目標には、売却益を含んでいますか。

A. ROA3%を超える部分については売却益を見込んでおります。昨年のオリックス電力売却の際には、契約口座の多さという部分で、自分たちの認識よりも高い価値を付けていただけたことが分かりました。環境エネルギーの分野においても、オリックスの知見やノウハウを生かして事業を開発し、価値を十分に高めることができれば、安定した売却益が見込めるのではないかと考えています。

以上

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。従いまして、これらの見通しのみで全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しております Form20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。